

第 14 回小田原市新しい学校づくり検討委員会の開催結果

- | | | |
|---|-------|--|
| 1 | 日 時 | 令和 6 年 6 月 17 日（月） 8:40～9:30 |
| 2 | 場 所 | オンライン（zoom）による開催 |
| 3 | 出席委員 | 9 名（委員名簿順）
内山絵美子委員、遠藤新委員、久田由佳委員、
柳澤要委員、木村秀昭委員、中谷彰吾委員、
浜口勝己委員、村上晃一委員、山本加世委員 |
| 4 | 欠席委員 | 竹内昌義臨時委員、木村元彦委員 |
| 5 | 出席職員 | 飯田教育部部長、岡田教育総務課課長、
中山教育指導課課長、松澤教育相談担当課長、
加藤教育総務課副課長、村田教育総務課学校施設係長 |
| 6 | 傍 聴 者 | 0 名 |
| 7 | 内 容 | （1） 開会
（2） 議事
ア モデル地域の選定等について
イ その他
（3） 閉会 |
| 8 | 配布資料 | 資料 1-1 モデル地域での検討プロセスについて（案）
資料 2-1 検討委員会の令和 6 年度検討スケジュール（想定）

参考資料 各地域の状況と見通し |

会議録

○事務局（岡田教育総務課長）

第14回 小田原市新しい学校づくり検討委員会を始めさせていただきます。本会議につきましては、お手元の会議次第により進めさせていただきます。

始めに配布資料の確認をさせていただきます。資料1-1「モデル地域での検討プロセスについて（案）」、資料2-1「検討委員会の令和6年度検討スケジュール（想定）」、参考資料「各地域の状況と見通し」となっています。

本委員会の会議につきましては、委員及び臨時委員の総数11名のうち、現在8名のご出席を頂いておりますので、委員会規則第5条第2項の定足数に達しており、会議が成立しておりますことをご報告させていただきます。また、遠藤委員におかれては、少し遅れて参加されるという連絡をいただいております。

ここからは柳澤委員長に議事の進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○柳澤委員長

朝早くからお集まりいただきましてありがとうございます。

それでは早速これから議事を進めてまいりたいと思います。本日の委員会につきましては小田原市審議会等の会議の公開に関する要望に基づき公開するものとします。

本日の傍聴希望者の有無について、事務局から報告をお願いします。

○事務局

本日の傍聴希望者はおりませんでした。

○柳澤委員長

これ以降、もし傍聴希望のある方がお見えになりましたら、随時対応をお願いします。

それでは次第に沿って説明させていただきたいと思います。

次第に議事2（1）モデル地域の選定等について事務局から説明をお願いします。

○事務局

それではご説明いたします。

資料1-1「モデル地域での検討プロセスについて（案）」をご覧ください。

モデル地域での検討プロセス案でございます。前回の内容を精査し、全4回に報告会を加えた構成に整理しております。こちらは、今回のワークショップ運営等に、遠藤委員とその研究室にご協力いただくことを予定していることから、内容については遠藤委員からのご意見も反映されております。第1回は、参加者への「インプット」として、本事業の全体像や地域・学校の現状と課題、さらに、そ

の解決策や新しい学校のイメージ等について説明した後、質疑や意見交換等を行っていただきます。第2回・第3回は、テーマを設定して、ワークショップを行います。実際の地域別の検討の際に挙がりやすいテーマとして、「通学環境」と「新しい学校の運営」を仮置きしております。第4回は、予備として、3回までの検討の進捗に応じて、内容や実施手法等を設定することを想定しております。最後に、参加者以外の地域・学校関係者等を対象に、広く検討経過や結果についてお伝えする「報告会」を実施したいと考えております。

3ページをご覧ください。「モデル地域の選定について(案)」でございます。前回の委員会において、今後の検討における「地域割り」につきまして、中央・片浦、富水・桜井、川東、橘の4つとさせていただいたところでございます。この4地域の中で、モデル地域での検討の目的である、「今後各地域で合意形成プロセスを進めていくにあたり、より実効性の高い手法とする」ための検討を実施するのに望ましい地域について、事務局で検討いたしました。

選定のポイントとして、資料に記載のとおり、参加者が発言しやすい規模として、参加人数は15～20人程度を想定していることから、関係者の人数が多くなることが見込まれる、対象校数の多い地域(中央・片浦、川東)は除外したいと思います。また、今後の横展開を考慮し、他地域でも検討することが想定される主要な論点を包含していることも重要と考えました。結果、残りの2地域のうち、分散進学の該当校はないものの、対象校全てで学区と自治会の整合が必要である、富水・桜井地域がモデル地域として望ましいと考え、事務局案として提案させていただきます。

モデル地域が決まりましたら、遠藤委員や当該地域の関係者、学校の先生方等と調整をさせていただき、次回委員会において、詳細なスケジュール等をお示ししたいと思います。

なお、参考資料につきましては、市立小中学校36校を地域別に分け、現在と20年後の学級数や施設の築年数の変化等をまとめたものになります。こうした状況を踏まえ、今後論点・与件の整理を進めていく予定です。説明は以上でございます。

○柳澤委員長

ありがとうございました。

前回委員会で定めた4つの地域の中からモデル地域を1地域に選定するという事で、事務局からは富水・桜井地域が提示されたという形になります。

プロセスの検証が主眼ということで、対象校があまり多くない地域で、かつ他地域でも検討が想定されるような論点が含まれる地域ということで、この富水・桜井地域を選定したという説明でした。

あわせてモデル地域での検討スキームの概要も示されました。遠藤委員のご協力のもと、2回目、3回目はテーマを設定したワークショップを実施し、全体終

了後に報告会を実施するというような内容です。

検討内容は通学区域の話や、学校運営、特に地域と学校がどう関わるかというようなことを現時点ではテーマ設定をしてワークショップを実施したいということかと思います。これに関してご質問等ありましたらよろしくお願いします。

○村上委員

今の事務局の説明で理解できたのですが、他の地域でも検討が想定される論点という事であるならば、分散進学が対象となる地域が候補になると考えられるのではないかと思います。事務局の考えとしてもう一度説明していただけるとありがたいです。

○事務局

モデル地域の選定について、分散進学のポイントがある地域の方が良いのではないかとこの件ですが、モデル地域の選定については先ほど説明したように、まずは検討のプロセス、合意形成に向けたプロセスをどうしていくかというのが一つ重要だと思っています。モデル地域での検討で合意ができ、いろいろなことが決まっていくことが理想ではありますが、まずは、合意形成のプロセスでどのような問題が出てくるか、そこを検証していくことが一番重要だと考えております。

その意味で、対象校が多くなりすぎると関係者が多くなりすぎて意見を言うだけで時間が足りなくなってしまう。そうすると、モデル地域としての合意形成プロセスの検証がなかなかできないのではないかとこのことが懸念の一つにあります。

また、自治会区域との整合という点は、橘地域では対象校は少ないものの、整合が取れており、優先順位的に低くなると考えております。中央・片浦地域、川東地域については逆に対象校数が多くなり、意見集約や発言だけでも時間がかかってしまい合意形成プロセスの検証ができないのではないかとこのことを全体的に勘案して、富水・桜井地域を今回はモデル地域とした方が良いのではないかと事務局としては判断いたしました。

○柳澤委員長

モデル地域の選定は、どちらかというと学校数の多さよりも、意見の集約にある程度主眼を置いて選んだということでしたが、村上委員よろしいでしょうか。

○村上委員

分かりました。選定内容については一般説明で必ず聞かれる部分ではないかと思いき質問いたしました。ありがとうございます。

○柳澤委員長

ワークショップに関わられるということで、遠藤委員、何かコメントやご意見、追加説明等ありましたらよろしくお願いします。

○遠藤委員

モデル地域でワークショップを行うにあたり、どのような素案を基に議論をしていくのが重要ですが、その素案の作り方や出し方を事務局のほうで検討していただき、その上で進めていくことになります。通学路は何らかの形で変わってくるはずなので、その辺りが論点の一つになると想像しています。

それ以外の点は、どのような学校にしていけるかも含めて、新しい学校では地域との関係が大事な論点になると思います。少なくともその2つとモデル地域の特徴についてのご意見を踏まえながら進めていくのではないかと考えております。

○柳澤委員長

通学環境と地域との関わりというのが大きなテーマになるだろうということですね。学校自身をどうするかといった話は、モデル地域での検討ではそれほど必要ないのでしょうか。

○遠藤委員

どこかの段階で検討が必要だとは思いますが。基本計画の最後の段階なのか、いつにするのか、そこもあわせて事務局のほうでどのように作っていくか、何らかの議論する素案が必要になるのではないかと思います。

○柳澤委員長

第1回で新しい学校のイメージというのは出しているので、それについては最初に意見交換するというところもあるかなと思っております。

○浜口委員

このモデル地域というのは、あくまでモデルということで、このあと他の3つの地域については、モデル地域での実際を踏まえて、回数や人数なども検討していくのだと思っているのですが、今回のモデル地域は小学校4校、中学校2校の計6校が対象ですが、想定される参加者が、教職員、保護者、学校運営協議会員、地域関係者、児童生徒とあり、6校から平等に入れるとそれだけでも30人になってしまうのではないかと考えています。ある地域は入れる、ある学校は入れない、となってしまったときに人数調整などはどう考えているのか確認したいです。

○柳澤委員長

いかがでしょうか。参加者の内訳として、教職員、保護者など、ここに書いてあ

る人たちを入れるとすると、全体の人数やどの学校の方を入れるのか、全員入れるのか、事務局から詳細なご説明をお願いします。

○事務局

詳細については、学校や関係する団体と協議していく必要があると認識しております。自分の地域の関係者がいないとなると今後の検討はできないということもあるので、ある程度、各学校から学区の中に関係する方たちには出ていただくということは想定しております。

ただし、モデル地域での検討はどちらかというと、何かを決めるというよりは、ここで何を議論していただくかというところがメインになると思いますので、地域や属性のバランス、最終的な人数については、関係する各団体さんと調整しながら決めていきたいと考えています。

参加者については、案にある通り 15～20 名程度、場合によっては関係者だけでなく、地域の中での候補者をご推薦いただくなど、関係者以外のご意見も入れていきたいと考えています。人数については 20 人を上回ることもあると考えています。

○浜口委員

そうすると単純に考えて「教職員」、「保護者」、「学校運営協議会」、「児童生徒」のそれぞれ各校 1 人ずつだとして、今回の対象校は 6 校あるので、この段階で 24 人となります。さらに「地域関係者」、「自治会」「関係者以外」の 3 つが参加したとすると、約 30 人近くになるのかなと思います。人数のバランスは確かにあると思いますが、それぞれ最低 1 人いれたとしても、そのぐらいの規模という前提で考えていいのでしょうか。これがモデル以外の場合、中央・片浦であれば小学校 10 校、中学校 4 校で 14 校あるので、同じように考えてその単位でやるのか、分散して分けて発言のしやすさを重視するのか、そのあたりもモデル地域の検討を踏まえて他の地域はどうするのかというのも考えていくということによろしいのでしょうか。

○事務局

先に「教職員」、「保護者」、「学校運営協議会」、「地域」など、関係するところはマストの部分がありますが、そのあたりはモデル地域でお話したように、各団体や学校等と調整しながらになると思っています。

児童生徒についてですが、モデルの検討する時間等もありますので、子供たちの意見を直接聞くということは、別の方法も検討したいというふうに考えています。

20～30 人程度での検討を想定していますが、同様の体制で中央・片浦地域や川東地域全体として検討を行うことは、現実的には厳しいだろうという認識でいます。そうすると、中央・片浦地域や川東地域については、例えば中学校区でもう少

し分けるということも考えられます。川東地域はちょうど南北の真ん中に豊川小学校があり、そこが分散進学ネックになっているところでもあるので、それ以外の検討フレームを考える必要もあると思います。今後モデル地域の検討を試していく中で、どのくらいの検討体制が妥当なのか、というところも検討していこうと考えております。

○柳澤委員長

遠藤委員は実際に行う立場としてその辺はどういうお考えですか。

○遠藤委員

私の考えとしては、人数が多くなるときは、テーブル数を増やして行うことになるとは思いますが、限界があるので、具体的に分けてやるとか、そういう対応が場合によっては必要かもしれません。

○柳澤委員長

学校のワークショップではありませんが、千葉県の自治体でワークショップをしています。地域が多くて、ほとんど毎週土曜日は出勤しなくてはいけない事態になっており、ワークショップをある程度まとめた方がいいという話は当然あると思います。人数を重視するのか、回数を考えるのか、そこも検討が必要なのかなと思います。

○木村秀昭委員

モデル地域でのワークショップ参加者について、学校に関係のある方は当然として、やはり一般の方も呼ばないといけないと思います。学校関係者だけで決めてしまうと後で問題になってきたりするのではないのでしょうか。

○村上委員

後で問題になるかどうかは分かりませんが、先ほど事務局の説明にもあったように、子供たちの意見や、教職員の意見というのは別の形ででも吸い上げる必要はあるかな、とは思っています。ただ、それがこのワークショップの中に同時に入れ込めるか、というのは物理的に難しいと思うので、そういう意味では別の形で意見を吸い上げる方法を考える必要があるのではないのでしょうか。

○木村秀昭委員

懸念として、人数が多くなってワークショップが2つ、3つに分かれたときに結局また最終的に全員が集まってそれぞれの意見をまとめる場というのが必要になるのではないのでしょうか。やっぱり場所によってみんな違う意見を持ってこられたときにそれを一つにまとめるというのは、なかなか難しいのではないのかなと思っ

ているのですが、その点はどうですか。

○村上委員

確かにそれはあると思います。先ほど事務局からもあったように、人数的な部分ではモデル地域の検討がスムーズにいくように、ということはやっぱり大事なポイントだと考えていました。ただ、一方で先ほども言いましたように、「学校関係者」、「児童生徒」も含めてどう思っているかというのを同じような形で吸い上げていて、それも加味しながらモデル地域での検討プロセスを進めていくという形しかないのかな、というふうには思っています。

確かに人数が多くなると、いろんな考え方があって集約していくというのはなかなか難しい部分だと思いますが、モデル地域での検討ということもあるので、関係する方全ての意見を入れながらやっぱり展開していくというのが大事になってくるのではないかと思います。

○柳澤委員長

なるべく大勢の方、いろいろな立場の方に意見を出していただくことが重要なので、あまり絞らずなるべく関係する人を1人ずつでも集めて、広く関わっていただいた方がいいと思います。ただし、一方であまり大きくなりすぎると意見集約がしにくいという部分もあるので、地域単位等でフレームを分けるといったことも考えられます。

また地域と学校については、私も過去に経験があるのですが、学校の方はやはり学校の安全第一。地域の方は、できれば学校をなるべく利用したい、という考えをお持ちだと、意外にご意見がぶつかると言います。地域は施設を開放してほしいのですが、学校側ができればやりたくないなど、まとまらない部分も出てくると思うので、検討体制の中に学校関係者の方と地域の方がどちらも参加されていると、論点によっては話がまとまらないということも起こる可能性があります。その場合は、学校は学校で子供たちも含めて意見を出してもらい、地域の方は地域としての意見をまとめ、後でうまくすり合わせるというやり方もあるかもしれません。

今、私が関わっているのは学校ではありませんが、地域を分けたときには、やはり地域が違うというご意見もあり、そのままにしておくバラバラの意見のまま終わってしまうので、第1回は、かなり人数が多くなりますけど、全体会としてみんなで集まって、同じ課題を一旦は共有して、その後の2回、3回は分科会のような形で、各地域に分かれてワークショップを行い、4回目はもう1回全体で集まり、その結果を集めて少し情報を共有する。そういった全体会と分科会という建付けもあるかもしれません。こうしたやり方については、それこそモデル地域で検討する必要があるのかな、と思いました。

○木村元彦委員

富水・桜井地域は私が住んでいる地域なのですが、それがモデル地域ということで、先ほど委員長さんがおっしゃったようなことも頭に入れながらモデルとして何とかしていかなきゃいけないのかなという気持ちはあります。やはり一番困るのは、先ほど村上委員も言ったように、個人がいろんな意見を出していく中で、それをワークショップの中でまとめるというのは至難の業かなと思います。その辺のテクニックなど何かあったら教えてもらいたいと思うのですが、いかがでしょうか。

○柳澤委員長

ワークショップ自体は、結論を出すとか、合意形成を図るということは、必ず行うことでもないと思います。意見を出し合って、それを参考にして次のアクションを起こしていくということもありうるかなと思うのですが、今の木村委員のご質問に関して事務局から何かありますでしょうか。

○事務局

これから遠藤先生と支援事業者と詰めていくところではありますが、モデル地域での検討自体は、他の地域でも行えるよう実効性の高いプロセスを検証するということが大きな目的です。まずは、この検討のゴールポイントがどこになるのかというのを明確にして、そこから逆算して、ゴールポイントに持っていくためにどんな方にご参加いただき、どういう情報を事務局から提示して、どういうワークショップを行っていくのか、委員の皆様にもご意見をいただきながら、参加者の選定と、検討会4回の建付けを整理したいと思います。

○遠藤委員

木村委員の話や事務局の説明と、先ほど柳澤委員長がおっしゃったような話が大事になってきて、ワークショップは多分人数が増えれば増えるほど、何かを決める場にはなりません。目的として、各地域の新しい学校づくりの基本計画を最終的に取りまとめたわけですが、それをどういうプロセスで決めるのか、という「決める段取り」みたいなものを全体としてざっくりと示した上で、ワークショップではそのうちのある部分のアイデアを出してもらう。またある部分のアイデアを練る、というように、位置づけを明確に参加者に伝えるということが最初に必要になってくると思います。

おそらく「こういう案でいきましょう」みたいに、合意形成をすること自体は、今回、モデル地域で考えているワークショップの先にあるのではないかと私は予想しています。

議論をするにあたり、今回の新しい学校の案について、議論のたたき台となる案がないと議論が始まらないと思います。それはおそらく行政が一番情報を持っているので、これまでのいろんな計画や状況を含めて、こういう叩き台があります、ということを提示したうえで、議論を始めるのが一番妥当だと思っています。

ただ、その案には学校関係者の視点は全く入っていないかもしれないし、当然地域の視点は全然入っていないので、その案に対して現場の視点ではこういうことがないと学校は運営できないとか、地域としてはこういうふう思うけれども、本当にそういうことができるのか、などそういうアイデアを加えていって、もうちょっと実態としてより熟度の高まった案ができて、改めてそれを然るべき合意形成のプロセスの中に落とし込んで合意形成していく、ということをやらないといけないと思います。

人数が多くなるほど、しっかりと段階を分けないとぐちゃぐちゃになりますので、全体としてどのようにまとめて、どのように決めようとしているかということを含めて、事務局から関係者にうまく伝わるように最初に示す必要があるのではないかと一般論も含めて思うところです。

○柳澤委員長

ありがとうございました。ワークショップというのは本来そういった合意形成というよりは、いろんな意見をいろいろな立場からあげてもらうもので、ワークショップに参加される方にも、そのことを最初に言っておかないと、「地域代表者としてそんなジャッジに関われません」みたいな話にもなったり、また、「何か決める会なのではないのですか」と思い込む方もいらっしゃるので、ワークショップはこういう目的で、あくまでも何か決めたりすることではなくて、いろいろな立場から意見をいただいて、最終的には判断はこの場での意見などを参考に、別の意思決定機関で決めていくということを、あらかじめ参加者の方にご理解していただいた上で、実施するというのも大事なかなと思います。

何か関連してありますでしょうか。事務局としてもそういう方針でということでしょうか。

○事務局

最終的に委員長から総括いただいたような形や、その前段の遠藤委員からのお話にあったように、おそらく第1回の時にどういう形で参加される方と情報共有を図るか、あるいはその前の人選の段階で、どういう方に何を目的で参加していただくか、ということを明確にしていくのが重要だにご意見いただきましたので、それを踏まえて地域との調整等もしていきたいと考えています。

○柳澤委員長

よろしくお願いします。他に何かなければ次の議題に移りたいと思います。

それでは次の議事（２）その他について事務局から説明をお願いします。

○事務局

それではその他ということで、今後のスケジュールを合わせて簡単にご説明さ

させていただきます。資料2-1「検討委員会の令和6年度検討スケジュール(想定)」をご覧ください。赤字部分が前回からの更新となります。

次回、第15回の委員会は、8月初旬頃を予定しております。先ほどご説明したモデル地域での検討スキームやスケジュールをお示しするとともに、論点及び与件の検討も行いたいと思います。また、部会の進捗次第となりますが、整備指針(素案)についてもお示ししたいと考えております。モデル地域での検討は、8月下旬頃から12月頃にかけて行う予定で、その間の委員会におきまして、適宜実施状況等について情報共有させていただく予定です。その間は、論点・与件の検討とともに、順次、地域案の検討を進めていく予定です。スケジュールは、以降も変更する可能性がありますので、その際は再度お示しいたします。

最後に、委員会の会議録についてですが、事務局が作成したのち、委員の皆様にご確認いただいたうえで、市のホームページで公開させていただきます。

説明は以上でございます。

○柳澤委員長

ありがとうございました。

今後の検討スケジュールについて、以前のものと更新されたものが示されたということですね。

回りの検討委員会では論点の検討とモデル地域での検討、スキームの詳細について検討したいということです。モデル地域の検討については8月の後半から12月にかけて実施して、その間の経緯については随時委員会でも共有されるということです。

その後の検討内容はまだ流動的ということですが、現段階のスケジュールについて特に何かご質問やご意見等あればよろしくお願いします。

○浜口委員

直接この検討委員会でという話ではありませんが、モデル地域をあげていただいたと思いますが、それぞれの小中学校の校長のほうに、教職員は例えばどういう方に出席をお願いしたいのか、児童への意見収集をどうするのか、保護者は誰がどう決めるのか、決めるまでに学校は関わるのか、学校で決めるのかとか、その辺りを各校長への説明の場を設けていただければと思いますので、よろしくお願いします。

○柳澤委員長

学校側への説明や、どういうタイミングでどういう選出をしていただきたいのか、学校に対してのスケジュール等の説明が必要かなと思いますが、事務局いかがですか、そこはよろしいでしょうか。

○事務局

校長会へお伝えすることも当然必要ですし、各校長、先生含めた学校への説明も必要だと思っておりますので、詳細についてはまたご相談させていただきます。それを想定した上で人選等のご相談をしていきたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いします。

○柳澤委員長

よろしくお願いします。ほかに何かご質問、ご意見等ありますでしょうか。なければ終了といたします。それでは予定していた議事は終了しました。

それでは進行を事務局の方にお返ししたいと思います。

○事務局（飯田部長）

皆さん本日は朝早くからありがとうございました。

私事になりますが、来る7月1日付の人事異動により、このたび、現職を離れることとなりました。

皆様、2年間、本当にお世話になりましてありがとうございました。

7月からは新しい部長が着任いたしますが、十分引継ぎしてまいりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。本当にありがとうございました。

○事務局

それでは、以上で第14回の新しい学校づくり検討委員会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。